

事業報告書

平成26年度

(第7期事業年度)

自 平成26年 4月 1日

至 平成27年 3月31日

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構

I 地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構の概要

①設立目的

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構は、地方独立行政法人法に基づき、医療の提供、医療に関する調査及び研究等を行うことにより、庄内地域等の医療政策として求められる高度専門医療を提供し、及び当該地域における医療水準の向上を図り、もって住民の健康の維持及び増進に寄与することを目的とする。

②事業内容

- (1) 医療の提供に関すること。
- (2) 医療に関する調査及び研究に関すること。
- (3) 医療に関する技術者の研修に関すること。
- (4) 医療に関する地域への支援に関すること。
- (5) 災害時における医療救護に関すること。
- (6) 前各号に掲げる業務に附帯する業務に関すること。

③主たる事務所 酒田市あきほ町30番地

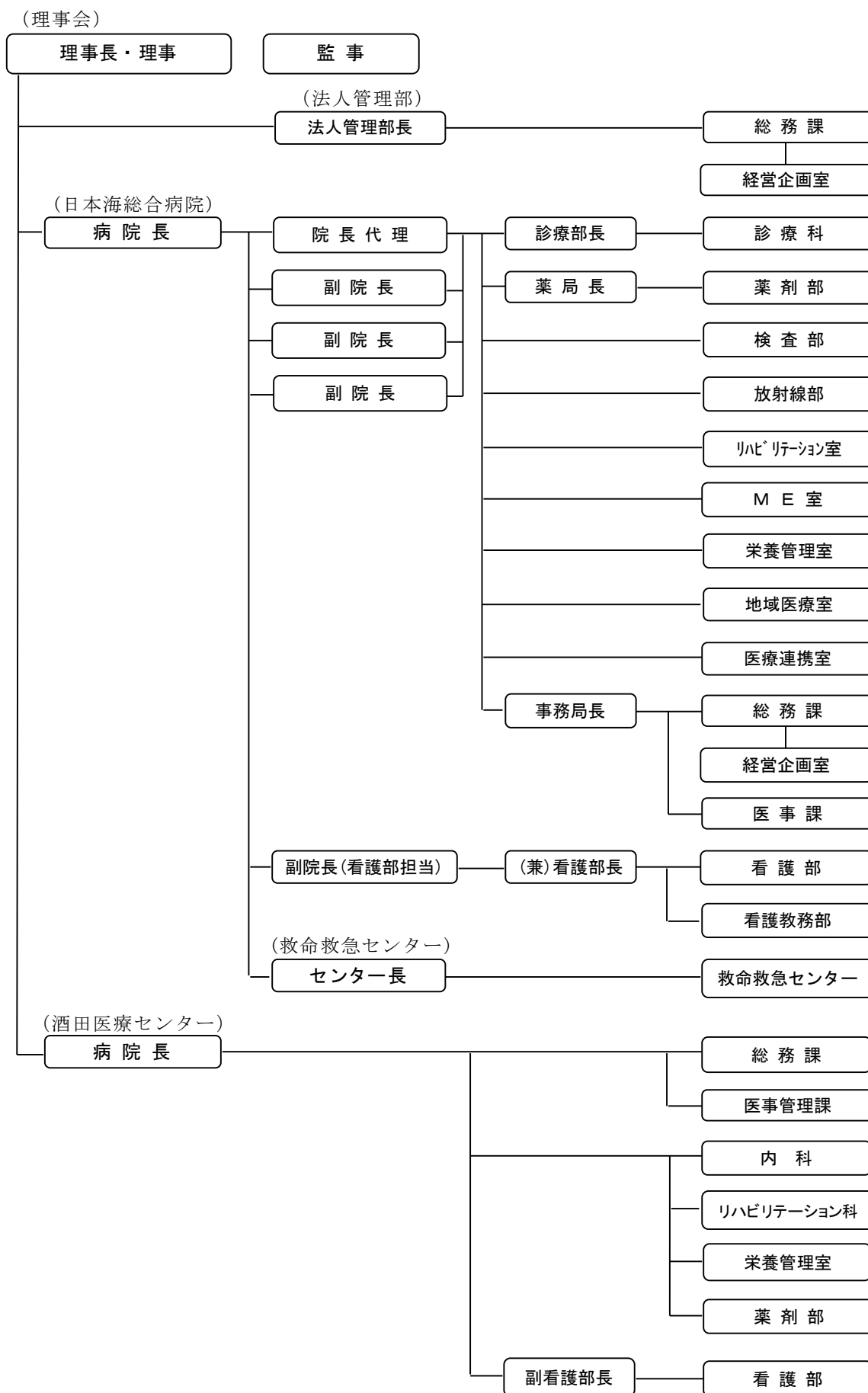
④役員

職名	氏名
理事長	栗谷 義樹
理事	鈴木 晃
理事	島貫 隆夫
理事	小熊 正樹
理事	内村 文昭
理事	齊藤 宗一
理事	佐藤 三紀
理事	菅原 司
監事	齋藤 俊勝
監事	加藤 栄

⑤ 設置、運営する病院

日本海総合病院	酒田市あきほ町30番地
日本海総合病院 酒田医療センター	酒田市千石町2丁目3番20号

⑥ 組織



⑦ 職員の状況

(4月1日現在)

職 種	日本海総合病院			酒田医療センター			計		
	H25	H26	増減	H25	H26	増減	H25	H26	増減
医師・歯科医師	132	141	9	4	3	△ 1	136	144	8
医療技術員	126	138	12	21	27	6	147	165	18
看護・介護職員	554	568	14	37	54	17	591	622	31
事務職員	38(1)	48(11)	10(10)	5	5	0	43(1)	53(11)	10(10)
スタッフ職員	—	42(1)	42(1)	—	5	5	—	47(1)	47(1)
計	850(1)	937(12)	87(11)	67	94	27	917(1)	1,031(12)	114(11)
法人職員	837	925	88	65	92	27	902	1,017	115
県派遣職員	6	6	0	0	0	0	6	6	0
市派遣職員	7	6	△ 1	2	2	0	9	8	△ 1

※()は法人管理部職員数で内数

⑧ 資本金の状況

12,381,263,678円 (平成26年9月25日変更登記時)

◇平成26年度の事業概要

1 診療計画及び診療に関する重点事項等

(1) 診療計画

日本海総合病院及び日本海総合病院酒田医療センター（以下、「酒田医療センター」という。）は、将来にわたり持続可能な経営に向けて努力するとともに、地域医療向上のために以下のような取組みを行った。

①日本海総合病院

地域の中核病院として急性期医療の充実に努め、地域医療支援病院をはじめとする各種指定の病院機能を十分に発揮し、「安心、信頼、高度な医療提供」及び「保健、医療、福祉の地域連携」の基本理念に基づいた医療の提供に努めた。

日本海総合病院の機能

許可病床数	646床
診療科 (26科)	内科、循環器内科、消化器内科、内視鏡内科、精神科、神経内科、小児科、外科、乳腺外科、小児外科、心臓血管外科、呼吸器外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、リハビリテーション科、皮膚科、産婦人科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、歯科口腔外科、麻酔科、救急科、病理診断科
病床の種別	一般病床
併設診療機能	救命救急センター、屋上ヘリポート設置
特殊診療機能	ICU（集中治療室）、HCU（準集中治療室） 未熟児室 感染症病床 放射線治療 外来がん化学療法 セカンドオピニオン外来 緩和ケア 人工透析 地域医療室（地域連携・在宅療養支援など）
救急外来機能	診療科全般
その他	病院間移動用ワゴン車、院内保育所

②酒田医療センター

新たに回復期病棟1病棟の体制を整備し、計画していた療養病棟1病棟（35床）、回復期病棟2病棟（79床）でフルオープンし、療養及び回復期医療の一層の充実に努めた。

理学療法士等を増員し、リハビリテーションの充実に図り、患者のQOL維持・向上に努めた。

酒田医療センターの機能

許可病床数	114床
診療科 (2科)	内科、リハビリテーション科
病床の種別	療養病床
特殊診療機能	地域医療室（地域連携・在宅療養支援など） 通所リハビリテーション（デイケア）
その他	病院間移動用ワゴン車

(2) 診療に関する重点事項

①診療体制の整備

医療需要の質的・量的変化や新たな医療課題に適切に対応するため、平成26年度は次のとおり診療部門の充実を図った。

a) 救急医療(日本海総合病院)

- 救命救急センターの機能の充実を図るため、救急科専門医1名を育成した。
- ドクターカーの配備を検討するため、酒田地区広域行政組合の「酒田救急ワークステーション」との連携強化を図り、当該組合の要請によって引き続き医師及び看護師が救急車に同乗・出動した。

【実績】救急車同乗・出動件数

H24	H25	H26
3件	5件	4件

- より症状の重い患者に救命救急センターの医師が対応できるよう、一般社団法人酒田地区医師会十全堂（以下、「酒田地区医師会」という。）の協力を得て、平日夜間救急外来（小児を含む。）を酒田市の財政支援のもと継続して行った。

【実績】救命救急センター受診状況

		H24	H25	H26
延べ患者数		23,979名	24,653名	24,012名
酒田地区医師会 診療支援	小児(延べ)	(743名)	(639名)	(581名)
	成人(延べ)	(1,715名)	(1,582名)	(1,280名)

※（ ）内は、「延べ患者数」の内数である。

b) がん医療(日本海総合病院)

- 地域がん診療連携拠点病院として機能の充実を図るため、緩和ケア内科の開設について検討し、平成27年4月からの標榜に向けて届出を行った。

○がんの早期発見のため、PET/CT検診の拡大に努めた。

【実績】PET/CT検査（検診）件数

	H24	H25	H26
検査件数	442件	811件	819件
（うち検診件数）	（22件）	（186件）	（112件）

○手術、放射線療法及び化学療法を、効果的に組み合わせて治療を行った。

【実績】手術、放射線療法、外来化学療法の件数

	H24	H25	H26
手術	1,123件	1,117件	1,068件
放射線療法	7,793件	7,928件	6,726件
外来化学療法	3,092件	4,922件	3,739件

※「外来化学療法」の件数は、延べ実施件数である。

○緩和ケア医療の充実を図るため、次のとおり取組んだ。

【実績】病棟回診延べ患者数、緩和ケア外来患者数

	H24	H25	H26
病棟回診	367名	449名	457名
緩和ケア外来	105名	168名	101名

○緩和ケア担当医と主治医における各種オーダー又は指示、使用病棟等の調整を行い、緩和ケア病棟に必要な体制整備を図った。

○セカンドオピニオン外来を、次のとおり行った。

【実績】実施件数

	H24	H25	H26
	4件（がん3件）	11件（がん10件）	7件（がん7件）

※（ ）は、内数である。

○地域がん診療連携拠点病院として、次のとおりがん登録を行った。

【実績】がん登録件数

	H24	H25	H26
院内がん登録	1,684件	1,705件	1,568件
地域がん登録	1,653件	1,680件	1,549件

○研修を修了した5名のがん相談員（看護師3名、社会福祉士2名）により相談を実施し、患者及び家族の支援を行った。

【実績】がん相談件数

	H24	H25	H26
	818件	1,204件	963件

c) 脳卒中・急性心筋梗塞

○急性心筋梗塞に対し、医師、看護師、コメディカルスタッフが連携し「door to balloon time」（最短時間でカテーテル治療を開始するまでの時間の短縮）を実践した。

○専門的医療やCT、MRI検査の24時間対応を継続した。

【実績】脳梗塞、くも膜下出血、脳動脈瘤、脳内出血で実施した件数

機器	H24	H25	H26
CT	1,015件	934件	730件
MRI	819件	929件	844件

【実績】心筋梗塞、狭心症で実施した件数

機器	H24	H25	H26
CT	255件	265件	331件
MRI	40件	31件	18件

○日本海総合病院は急性期リハビリテーションの充実を図り、酒田医療センターの回復期リハビリテーションとの連携強化を図った。

【実績】心大血管疾患リハビリテーション料1

	H24		H25		H26	
	実患者数	回数(単位数)	実患者数	回数(単位数)	実患者数	回数(単位数)
日本海総合病院	422名	9,196回	534名	12,453回	689名	17,556回

【実績】脳血管疾患リハビリテーション料1

	H24		H25		H26	
	実患者数	回数(単位数)	実患者数	回数(単位数)	実患者数	回数(単位数)
日本海総合病院	1,303名	44,118回	1,400名	43,956回	1,492名	49,034回
酒田医療センター	243名	40,963回	269名	48,761回	375名	66,175回

○患者の早期回復を図るため、日本海総合病院において土、日、祝日の心大血管リハビリテーションを開始した。

【実績】土、日、祝日の実施件数等

延べ患者数	回数	日数
611名	734回	121日

d) 糖尿病(日本海総合病院)

○チーム医療による食事療法、運動療法、薬物療法等を組み合わせた教育入院等の治療を継続して行った。

【実績】教育入院患者数

H24	H25	H26
83名	52名	65名

【実績】個別栄養指導件数

	H24	H25	H26
入院	239件	252件	300件
外来	336件	327件	400件
合計	575件	579件	700件

○糖尿病教室を次のとおり開催した。

【実績】開催回数、参加人数

	H 2 4	H 2 5	H 2 6
開催回数	1 2回	1 4回	1 6回
参加人数	4 5名	4 4名	5 5名

○看護師と管理栄養士が共同で、次のとおり糖尿病透析予防指導を行った。

【実績】糖尿病透析予防指導の実患者数、指導回数

	H 2 4	H 2 5	H 2 6
実患者数	2名	2 5名	3 0名
指導回数	5回	5 5回	7 3回

e) 回復期リハビリテーション(酒田医療センター)

○回復期リハビリテーションの充実のため、理学療法士を3名、作業療法士を2名、言語聴覚士を1名それぞれ増員し23名体制とした。

○73名の患者にドライブシュミレーションシステムを活用し、社会復帰に必要な動作の評価・測定を行い、効果的なリハビリテーションの提供に努めた。

○通所リハビリテーション(デイケア)の利用者拡大を図った。

【実績】リハビリテーション科の延べ患者数

	H 2 4	H 2 5	H 2 6
入院	11, 366名	11, 776名	23, 256名
外来	120名	392名	534名

【実績】リハビリテーションの実施状況

	H 2 4		H 2 5		H 2 6	
	実患者数	回数(単位数)	実患者数	回数(単位数)	実患者数	回数(単位数)
外来リハビリテーション	9名	299回	18名	498回	13名	433回
通所リハビリテーション			20名	1,040回	22名	1,651回

※「通所リハビリテーション」の「回数(単位数)」は、利用者の通所回数である。

f) 在宅医療支援及び療養支援

○日本海総合病院では、地域医療室及び医療連携室の看護師7名又は社会福祉士3名が、地域の介護・福祉・医療機関及び患者との退院調整業務を行った。

○酒田医療センターでは、看護師2名体制で、退院調整及び入院前面談等を行った。

【実績】退院調整

	日本海総合病院			酒田医療センター		
	H 2 4	H 2 5	H 2 6	H 2 4	H 2 5	H 2 6
他 病 院	875件	953件	984件	28件	33件	38件
在 宅	522件	492件	416件	177件	231件	324件
介護老人保健施設	70件	84件	98件	39件	41件	24件
介護老人福祉施設	154件	110件	118件	5件	1件	3件
ショートステイ	89件	101件	82件	11件	8件	10件
有料老人ホーム	115件	130件	112件	21件	12件	13件
そ の 他	81件	61件	69件	8件	4件	2件
合 計	1,906件	1,931件	1,879件	289件	330件	414件

【実績】入院前面談件数（酒田医療センター）

	H 2 4	H 2 5	H 2 6
入院前面談件数	397件	496件	535件
うち入院患者数	377名	471名	506名

○在宅患者及び介護・福祉施設の入所者に対して、かかりつけ医と連携して医療支援を行った。

○酒田医療センターと酒田地区医師会訪問看護ステーション「スワン」は、互いの協力が必要な患者において、それぞれの情報を交換し、より適切な対応をとることができるように連携を図った。

g) 病棟再編

○最近の入院患者の動向、より効果的な治療体制を考慮し、病棟診療科の再編を実施した。

h) その他

○日本海総合病院の入院患者の食事メニューについて、祝い膳や嚥下食の改善を行った。また、サイクルメニューの拡充について、平成27年度中の実施に向けて検討を行った。

○日本海総合病院と酒田医療センターの両病院間における患者の移動のため、「げんき号」を定期便の他、必要に応じて臨時便を運行した。

【実績】利用実績

	H 2 4	H 2 5	H 2 6
延べ乗車人数	4,057名	3,975名	3,751名
乗 車 率	12.9%	12.7%	12.2%

②災害時や健康危機における医療協力

- 平成26年11月22日に長野県北部を震源とした震度6弱（DMAT自動待機基準）の地震が発生し、本院DMAT隊員も待機となった。しかし、厚生労働省DMAT事務局より派遣を要請する可能性は低いとされ、待機は解除され出動はしなかった。
- 庄内SCU（航空搬送拠点臨時医療施設）の機能整備への協力として、山形県が所有の医療用資機材を日本海総合病院のDMAT資材庫で預かり管理を行った。
- 山形県の補助金を利用し、DMAT救急車を導入した。
- 他の機関が実施した災害医療訓練又は研修に、次のとおり参加した。

訓練実施日	会場	訓練・研修名	参加人数
H26.6.29～7.2	東京都立川市	日本DMAT隊員養成研修	5名
H26.7.23	天童市	災害時医療救護に関する研修会	3名
H26.8.2	山形市	山形県災害時医療救護訓練	5名
H26.8.9～10	山形市	DMAT技能維持研修	9名
H26.8.30	新潟空港、他	広域医療搬送訓練	5名
H26.9.7	酒田市	酒田市総合防災訓練	5名
H26.10.5	青森市	東北DMAT参集訓練	6名
H26.11.8	山形市	みちのくALERT2014	5名
H26.11.18	酒田市	庄内空港航空機事故消火救護訓練	2名

- 他の機関が実施した研修に、インストラクターを派遣した。

研修実施日	会場	訓練・研修名	派遣人数
H26.6.29～7.2	東京都立川市	日本DMAT隊員養成研修	2名
H26.8.2	山形市	山形県災害時医療救護訓練	2名
H26.8.9～10	山形市	DMAT技能維持研修	1名
H26.8.30	九州地方	広域医療搬送訓練	2名
H26.10.5	青森市	東北DMAT参集訓練	1名
H26.11.8	山形市	みちのくALERT2014	2名
H27.1.17～18	仙台市	DMAT技能維持研修	1名

○災害対策委員会が主体となって、日本海総合病院全職員、委託業者及び地域の医療従事者を対象に、災害医療研修を次のとおり実施した。

実施日	場 所	訓練・研修名	参加人数
H26. 5. 29	日本海総合病院 講堂	災害医療の基礎とトリアージ	148名 (うち院外5名)
H26. 6. 26	日本海総合病院 エントランス	模擬患者を使ったトリアージ研修会 協力：酒田地区広域行政組合消防本部	105名 (うち院外7名)
H26. 7. 26	日本海総合病院 エントランス	災害対応机上訓練 (本部・新設部門)	98名 (うち院外2名)
H26. 9. 20	日本海総合病院 エントランス	災害対応実動訓練 協力：酒田地区広域行政組合消防本部 酒田市立酒田看護専門学校	221名 (うち院外10名)
H26. 10. 1	日本海総合病院 講堂	災害対応実動訓練 総括	47名
H26. 11. 22	日本海総合病院 エントランス	災害対応机上訓練 (本部・病棟)	75名

○災害発生時に備え、次の災害医療対策用機器を整備した。

	機 材	機 器 名	メーカー	規 格	数量
災害拠点病院設備	応急用 医療 資機材	簡易担架スマートムーバー	船山(株)	830×340×250 mm (拡張時) 320×320×20 mm (収納時)	14式
		ホワイトボード	プラス(株)	1,200×900 mm	5台
		可動式水害防止用品 (ボックスウォール)	日本ステップ 工業(株)	705×680×528 mm 最大止め高 500 mm	56個
		ボックスウォール運搬用台車	日本ステップ 工業(株)	2輪台車タイプ	2台

○災害発生時に備え、次の職員用の食糧を備蓄した。

品 名 等	メーカー	賞味期限	数量
カロリーメイトロングライフ	大塚製薬(株)	2018年2月	5箱
ミルクビスケット 24 缶/箱	(株)ブルボン	2019年11月	12箱 288 缶
ミニクラッカー 24 缶/箱	(株)ブルボン	2019年11月	12箱 288 缶
防災用備蓄パン 24 缶/箱	あすなるパン	2020年7月	12箱 288 缶

○災害時においても、優先納入ができることを条件として物品購入契約を締結し、優先納入体制を維持した。

○新型インフルエンザ等対策特別措置法に規定する県の指定地方公共機関として、「新型インフルエンザ等発生時における診療継続計画」を策定した。

③政策医療の実施

- エボラ出血熱の患者受入等に備え、対応フローを作成し、院内感染マニュアルを改訂した。
また、新型インフルエンザ等対策行動計画を策定し、感染症対策の体制整備に努めた。
- 「認知症疾患医療センター」を運営し、引続き認知症疾患患者の専門医療相談、鑑別診断等を行った。

【実績】 相談件数

	H 2 4	H 2 5	H 2 6
新規相談件数	7 8 9 件	7 3 3 件	7 4 1 件
継続相談件数	2 8 6 件	4 1 6 件	3 5 5 件

- 臓器移植の理解を深めるため、庄内地域の医療従事者等を対象に、次のとおり講演会を開催した。

【実績】

実施日等	研 修 内 容 等	参加人数
H27.2.7 日本海総合病院 講堂	「脳死臓器提供について」 東北大学病院 移植・再建・内視鏡外科 准教授 川岸 直樹 先生	1 0 4 名

- 地域の小児医療機関の協力を得て、午後5時15分から午後10時まで、小児科医が救命救急センターに常駐し、地域の小児救急医療体制の確保に努めた。
- 二次周産期医療を行う拠点病院として、周産期に係る比較的高度な産科医療を実施した。

【実績】 母体・新生児の救急受入れ患者数等

救急受入れ患者数		緊急帝王切開術 (件)
母体	新生児	
7 名	8 名	2 2 件

④医療スタッフの確保及び資質向上

a) 医療人材の確保・育成

- 医学生の教育及び医師育成のため、臨床研修医、レジデント及びスチューデントドクター等を受入れた。

【実績】 臨床研修医等の年間受入れ人数

	H 2 4	H 2 5	H 2 6
臨床研修医	2 1 名	2 0 名	2 8 名
レジデント	1 6 名	2 3 名	2 8 名
スチューデントドクター	1 9 名	3 8 名	5 1 名
臨床医学修練生	1 名	2 名	0 名
地域医療実習生	4 名	4 名	5 名

- 2年次の臨床研修医8名が地方独立行政法人那覇市立病院において、地域医療研修を実施した。
- 医師以外の医療スタッフの育成をするため、各種学校等の要請に基づき可能な限り実習生の受入れを行った。

【実績】 実習生等の受入れ状況

受入れ部署	H 2 4	H 2 5	H 2 6
看護部(酒田市立酒田看護専門学校含む)	89名	99名	100名
薬剤部	0名	1名	1名
検査部	0名	2名	2名
リハビリテーション室(科)	13名	16名	18名
ME室	0名	2名	3名
栄養管理室	3名	4名	3名
歯科口腔外科	3名	0名	6名
医事課	3名	1名	2名
医療連携室	2名	6名	5名

○より質の高い看護を提供するため、次のとおり研修会を実施した。

実施日	対象者	参加人数	研 修 内 容 等
H26. 6. 25	H26年度 部署 研究者	23名	「看護研究(部署)：看護研究計画書を的確に書くことができる」 山形大学 医学部看護学科 基礎看護学講座 教授 片岡 ひとみ 先生
H26. 6. 26	H26年度 個人研究 ラダー4 研究者	11名	「看護研究(部署)：看護研究計画書を的確に書くことができる」 山形大学 医学部看護学科 成人慢性期看護学講座 准教授 武田 洋子 先生
H26. 8. 8	レベル1 受講者	68名	「ヘンダーソンの看護理論を理解し実践できる」 酒田市立酒田看護専門学校 副学校長 草刈 妙
H26. 9. 29	レベル3 受講者	49名	「実習指導をするための効果的な知識・技術を習得し実践できる」 酒田市立酒田看護専門学校 副学校長 草刈 妙
H26. 10. 14	H26年度 個人研究 ラダー4 研究者	20名	「統計処理ができ研究をまとめることができる」 山形大学 医学部看護学科 成人慢性期看護学講座 准教授 武田 洋子 先生
H26. 10. 23	H26年度 部署 研究者	24名	「統計処理ができ研究をまとめることができる」 山形大学 医学部看護学科 基礎看護学講座 教授 片岡 ひとみ 先生
H26. 10. 29	H26年度 全看護 職員	172名	「専門職業人として、看護師ひとりひとりが倫理観を高め看護実践に活かす」 山形県立保健医療大学 看護学科 准教授 寺島 美紀子 先生

○1名の看護師が、手術看護認定看護師の資格を取得した。

○医師1名、看護師2名、業務調整員2名が研修を受け、新たに5名のDMAT隊員を養

成した。

- 多職種が協働し、効率的に良質な医療サービスを提供するため、栄養サポートチームや人工呼吸サポートチーム等によるチーム医療を推進するとともに、新たに「ハートチーム」を立ち上げた。
- 地域医療に貢献する優秀な看護師又は助産師を確保するため、8名の看護学生等に修学資金の貸与を行った。

b) 事務職員の確保と専門性の向上

- 今後の地域医療政策のあり方について考察を深めるため、政策研究大学院大学(修士課程)に事務職員1名を派遣した。
- 医療法人健友会 本間病院及び庄内医療生活協同組合 鶴岡協立病院の事務職員と、平成27年3月13日に合同活動発表会を開催し、事務職員の知識の習得と専門性の向上を図った。
- 外部講師による次のような研修会を開催し、医師事務作業補助者の専門知識の習得と資質向上を図った。

実施日等	研修内容等	参加人数
H26. 11. 17 日本海総合病院 講堂	第1回 診療報酬研修会 「DPCについて」 株式会社ニチイ学館酒田支店 病院課長 橋場 千春 氏	63名 (全体参加者 92名)
H27. 3. 19 日本海総合病院 講堂	第2回 診療報酬研修会 「紹介率・逆紹介率向上へ向けて」 株式会社ニチイ学館酒田支店 病院課長 橋場 千春 氏	51名 (全体参加者 53名)

⑤医療サービスの効果的な提供

a) 地域連携の推進

- 地域の中核的な医療機関及び地域医療支援病院としての役割を果たすとともに、他の医療機関との役割分担及び連携の強化を図った。
- 当初、地域医療支援病院の指定要件である紹介率60%以上、逆紹介率30%以上を目標としていた。しかし、平成26年4月から指定要件が変更(紹介率・逆紹介率及びその計算方法の変更)になったことから、紹介率50%以上、逆紹介率70%以上に目標を変更して対応し、10月以降の年度後半においては目標を上回る月もあり、年間では紹介率が47.2%、逆紹介率が67.5%と目標まで近づくことができた。

【実績】 紹介率及び逆紹介率

※実績(通期)

	H24	H25	H26
紹介率	61.5%	62.2%	47.2%
逆紹介率	45.2%	47.2%	67.5%

※地域医療支援病院における算出方法による。(歯科口腔外科を含む。)

- 地域包括支援センターや地域の介護・福祉機関との連携を強化し、介護・福祉機関との積極的な情報交換や、退院時カンファレンスの取組みの強化等により、医療から介護・福祉へと切れ目のないサービスの提供に努めた。
- 日本海総合病院は、山形県立こころの医療センターの要請により「医療連携及び緊急時の患者搬送措置に関する覚書」及び「医療観察保護法対象者の入院受入協定書」を締結し、医療観察法病棟等に入院した患者で、急性期医療が必要となった患者の受入れについて連携を図った。

b) ITネットワークの活用（「ちょうかいネット」の活用推進）

- 平成23年4月から稼働した「ちょうかいネット」について、利用する医療機関等の拡大を図った。

【実績】利用状況 ※各年度の3月31日現在

	病院	医科診療所	歯科診療所	調剤薬局	介護老人保健施設	訪問看護ステーション	介護事業所	その他	利用施設合計	延べ登録患者数
H24	15施設	53施設	6施設	11施設	4施設	2施設	0施設	1施設	92施設	6,669名
H25	16施設	61施設	9施設	13施設	5施設	3施設	1施設	1施設	109施設	11,335名
H26	17施設	62施設	14施設	13施設	6施設	3施設	29施設	1施設	145施設	15,828名

c) 地域連携クリティカルパスの活用

- 「ちょうかいネット」を活用し、大腿骨頸部骨折、5大がん、脳卒中の地域連携クリティカルパスの適用件数の増加に努めた。
- 病診連携を考慮した心臓リハビリテーションクリティカルパスの運用を開始した。
- 前立腺がん（前立腺がん内分泌療法）の地域連携クリティカルパスを稼働させた。

【実績】地域連携クリティカルパス適用件数

	H24	H25	H26
肺がん	0件	0件	0件
大腸がん	13件	19件	21件
肝がん	0件	0件	0件
乳がん	24件	18件	14件
胃がん	9件	27件	19件
大腿骨頸部骨折	105件	118件	144件
脳卒中	92件	290件	246件
心臓リハビリテーション			87件
前立腺がん			17件

- 酒田市が実施主体の「酒田市認知症ケアパス作成・普及啓発事業」に共催で参加し、酒田地区医師会をはじめ地域の関係機関と協同で、患者の状態に応じた適切なサービス提供を考慮し、医療機関情報や生活支援情報を含んだ「認知症ケアパス」の作成を開始した。

⑥庄内地域における医療水準の向上

- 外科手術のための庄内医療生活協同組合 鶴岡協立病院への医師の派遣など、庄内地域の他の医療機関との交流及び連携強化を図った。
- 平成23年度から日本海総合病院内に開設されている、山形大学医学部先端分子疫学研究所酒田分室について、継続して調査活動に協力した。
- 日本海総合病院は、酒田市立酒田看護専門学校の実習施設として88名の看護学生を受入れるとともに、他の専門学校等からも10名の看護学生を受入れた。
- 産休及び育児休業取得者が増え、看護教員を養成するため職員を派遣することにより、病院の看護体制に影響することが懸念されたため、平成26年度は見送ることとした。
- 地域の医療従事者を含め、次のような研修会等を開催した。

実施日等	研修内容等	参加人数
H26. 6. 11 日本海総合病院 講堂	緩和ケア勉強会 「緩和医療における骨転移治療の意義」 第一三共株式会社 東北支店 斎藤 清 氏	122名 (うち院外30名)
H26. 6. 16 日本海総合病院 講堂	感染対策研修会 「敗血症診療におけるトータルマネージメント ～敗血症性 DIC の診断と治療～」 山形大学医学部附属病院 集中治療部 病院教授 中根 正樹 先生	131名 (うち院外3名)
H26. 7. 11 日本海総合病院 講堂	感染対策研修会 「今、エビデンス以上の感染対策を！」 東邦大学医療センター大橋病院 外科 教授 草地 信也 先生	131名 (うち院外10名)
H26. 9. 10 日本海総合病院 講堂	緩和ケア勉強会 「がん疼痛治療と鎮痛薬 ～オピオイドを中心に～」 大日本住友製薬株式会社 製品企画部 担当者	47名 (うち院外5名)
H26. 10. 16 日本海総合病院 講堂	感染対策研修会 「MRSA 感染症の治療」 山形大学医学部附属病院 感染制御部 副部長 阿部 修一 先生	156名 (うち院外26名)
H26. 10. 31 ガーデンパレス みずほ	「精神障害と認知症」 米沢市立病院 精神・神経科長兼精神科リハビリテーション室長 伊藤 正尚 先生	253名 (うち院外212名)
H26. 11. 7 日本海総合病院 講堂	緩和ケア勉強会 「食べる喜びを支える緩和ケアへの取り組み」 岩手県立胆沢病院 管理栄養士 蛇口 真理子 先生	68名 (うち院外13名)
H27. 1. 14 日本海総合病院 講堂	緩和ケア勉強会 「せん妄に取り組む ～理解と実践～」 日本海総合病院 精神科 科長 澁谷 譲	101名 (うち院外20名)
H27. 1. 23 日本海総合病院 講堂	「地域で支える看取りのケア」 日本海総合病院 緩和ケア認定看護師 村上祥子	95名 (うち院外82名)

○地域連携緩和ケア協議会を3回開催し、延べ57名（うち院外は延べ9名）が参加して症例検討を行った。

⑦住民の意識の啓発

○地域住民を対象に市民公開講座を開催し、最新のがん治療に関する情報提供を行った。

実施日等	事業内容等	参加人数
H26. 11. 8 酒田玉姫殿	地域がん診療連携拠点病院 市民公開講座 「粒子線治療」 放射線治療の効果や役割、重粒子線、原発に関すること 山大医学部附属病院 放射線治療科 教授 根本 建二 先生	80名

○患者、地域住民向け及び関係者向け広報誌「あきほ」の発行部数を2,500部から2,700部に増刷の上、年間4回発行し、住民等の医療や健康等に対する意識の啓発に努めた。

○他の機関等が行う地域の医療従事者や住民に対するセミナー等について、講師の派遣を積極的に行った。

実施日等	事業内容等
H26. 10. 4 東北公益 文科大学 公益ホール	平成26年度 肝がん撲滅運動 日本肝臓学会 市民公開講座 『肝臓病の最新治療』 「新しいB型肝炎の治療」 日本海総合病院 消化器内科部長 青木 政則 「C型肝炎の近未来」 日本海総合病院 消化器内科部長 鈴木 義広
H26. 10. 13 鶴岡市立 荘内病院	がん治療に携わる医師に対する緩和ケア研修会 「コミュニケーション技術に関する講義及びワークショップ」 日本海総合病院 精神科科長 澁谷 譲

(3) 患者・住民サービスの一層の向上

○待ち時間対策として、他の医療機関からの紹介患者の対応について検討を開始した。

○新たに患者満足度向上委員会を立ち上げ、患者満足度アンケートを実施して、患者ニーズの把握に努めた。（外来で1,233件、病棟で272件の回答があった。）

○ホームページによる情報提供に加え、新たにSNS（フェイスブック、ツイッター）を利用した情報発信に取り組み、発信力の強化を図った。

○設備などの改修・補修を行い、次のとおり院内環境の整備を図った。

整備箇所等	整備内容
外来待合ホール 1階西側床改修工事	床材のはがれ等劣化が進んでいるため、張替えを実施した。
外来診察室扉 改修工事	既存棟の外来診察室の扉は押し扉であり、入り口部分が狭いため車イス等が出入りしやすいよう引き戸に改修を行った。
病室内壁改修工事	既存棟の個室（重症室を含む。）76室の内壁を改修した。

○平成20年度から継続して重症心身障がい児（者）短期入所事業を行った。

【実績】延べ利用者数

H24	H25	H26
28名	14名	21名

○病児・病後児保育事業を酒田市から受託し、「あきほ保育園」において継続して当該事業を行った。

【実績】病児・病後児保育事業延べ利用者数

	H24	H25	H26
延べ利用者数	304名	233名	291名

○地域交流事業として病院祭「あきほ祭り」を開催し、酒田地区医師会と共催でバザーを開催するなど、内容をより充実させた。また、展示即売施設「あきほ市」については、新たに販売ブースを2棟設置し、常設即売施設として運営を行った。

（4）法令等の遵守と情報公開の推進

○平成24年度に定めた基本理念等を、職員研修の場で周知を図るとともに、病院機構及び2病院のホームページを活用し、広く住民にもPRした。

○セキュリティポリシー概略版の配布と情報セキュリティチェックシートによる自己評価を行った。対象者1,405名のうち、910名が自己評価を行った。

○「ちようかいネット」を利用している医療機関等に対し、情報セキュリティ研修を行った。延べ5回開催し、対象施設99施設のうち、52施設99名が受講した。

○インフォームド・コンセントを徹底するほか、カルテ等医療情報の情報開示については、山形県情報公開条例及び個人情報保護条例の適用のもとに、県の機関に準じて行った。

【実績】診療情報提供申出件数

	H24	H25	H26
日本海総合病院	49件	70件	64件
酒田医療センター	7件	2件	2件

（5）医療安全対策の充実・強化

○患者安全管理体制の推進・強化を図るため、医療安全対策委員会を中心に次のような活動を行った。

実施日等	研修内容等	参加人数
H26.7.22 日本海総合病院講堂	「医師が語る事例から学ぶリスクマネジメント」 東京海上日動メディカルサービス株式会社 メディカルリスクマネジメント室 山本 貴章 氏	258名
H26.11.19 日本海総合病院講堂	「各部門の取り組み発表」 研修医、看護部、薬剤部、検査部、放射線部、ME室	142名

○医療安全管理者を中心に、各部署の医療安全推進者（リスクマネージャー）と連携し、安全・安心な医療を提供するために情報の共有及び周知徹底を図り、医療安全対策の一層の向上に努めた。

2 人員配置の弾力的運用

(1) 負担軽減

○医師の負担軽減を図るため、引続き各病棟などに医療クラークを配置した。

【実績】医療クラークの配置数

H 2 4	H 2 5	H 2 6
5 9名	5 4名	5 2名

○看護師の負担軽減を図るため、看護補助者及び事務補助者を配置した。

【実績】補助者の配置状況

	H 2 4		H 2 5		H 2 6	
	看護補助者	事務補助者	看護補助者	事務補助者	看護補助者	事務補助者
病 棟	6 6名	1 4名	6 7名	1 6名	6 4名	1 2名
その他	1 8名	8 名	2 0名	1 1名	2 2名	1 8名
合 計	8 4名	2 2名	8 7名	2 7名	8 6名	3 0名

(2) 障がい者雇用

○障害者雇用促進法に基づき、障がい者の雇用促進及び有効活用に努めた。

【実績】雇用率

H 2 5	H 2 6
0. 6 5 %	1. 4 7 %

(3) スタッフ職員制度

○雇用の安定と人材の確保を図ることを目的として、臨時職員の中で業務遂行能力が高く、長期就業意欲を有する者を、期限の定めのない雇用に転換する「スタッフ職員制度」を創設し、47名を登用した。

3 施設整備及び医療機器等の整備計画

(単位：百万円)

区 分	執行額	財 源
資本支出		設立団体からの長期借入金、出資(出資債)及び自己資金
建設改良費	772	
医療機器整備	650	
その他(改修工事等)	122	

(1) 高度医療機器の計画的な更新・整備

○高度専門医療等の充実のため、平成26年度は次のとおり高度医療機器の更新・整備を行った。

診療科	機 器 名	備 考
放射線科	1.5テスラ超伝導MRI装置	更新
薬剤部	注射薬自動払出装置	新設

(2) 建物総合診断

○今後、30年にわたり現在の建物を使用することを前提にして、将来の大規模修繕を見据えた建物総合診断を行った。

4 患者動向と収支の実績

平成26年度における患者数と収支については、次のとおりであった。

(1) 患者数

区 分	日本海総合病院			酒田医療センター			計		
	H 2 5	H 2 6	増減	H 2 5	H 2 6	増減	H 2 5	H 2 6	増減
延入院患者数 (人)	192,641	185,273	△7,368	24,996	34,237	9,241	217,637	219,510	1,873
実入院患者数 (人)	16,735	16,295	△440	477	625	148	17,212	16,920	△292
入院/1日 (人)	527.8	507.6	△20.2	68.5	93.8	25.3	596.3	601.4	5.1
病床利用率 (%)	81.7	78.6	△3.1	86.7	82.3	△4.4	—	—	—
病床回転率 (%)	264.5	266.8	2.3	58.6	53.9	△4.7	—	—	—
平均在院日数 (日)	11.5	11.4	△0.1	51.9	56.4	4.5	—	—	—
延外来患者数 (人)	337,904	333,249	△4,655	731	828	97	338,635	334,077	△4,558
新外来患者数 (人)	32,017	29,807	△2,210	37	43	6	32,054	29,850	△2,204
外来/1日 (人)	1,384.9	1,365.8	△19.1	3.0	3.4	0.4	1,387.9	1,369.2	△18.7
病床数 (床)	646	646	0	79	114	35	725	760	35

(2) 患者一人当たりの診療単価

(単位：円)

日本海 総合病院	H 2 5	H 2 6	増 減	酒田医療 センター	H 2 5	H 2 6	増 減
入 院	59,510	61,012	1,502	入 院	22,982	24,101	1,119
外 来	12,447	13,055	608	外 来	3,448	3,067	△381

(3) 予算及び決算

(単位：百万円)

区分	予算額 (当 初)	決算額	差額 (決算 - 予算)
収 入	20,523	20,535	12
営業収益	17,690	17,665	△25
医業収入	17,087	17,070	△17
運営費負担金	603	595	△8
営業外収益	1,051	1,139	88
運営費負担金等	895	946	51
その他	156	193	37
資本収入	1,780	1,727	△53
金銭出資の受入	1,075	1,075	0
長期借入金	678	627	△51
その他(補助金等)	27	25	△2
その他の収入	2	4	2

(単位：百万円)

区分	予算額 (当 初)	決算額	差額 (決算 - 予算)
支 出	19,685	19,230	△455
営業費用	16,576	16,271	△305
医業費用	16,406	16,100	△306
給与費	8,703	8,757	54
材料費	4,545	4,425	△120
経費	3,059	2,834	△225
研究研修費	99	84	△15
一般管理費	170	171	1
営業外費用	397	385	△12
資本支出	2,711	2,543	△168
建設改良費	939	772	△167
長期借入金返還金	1,766	1,767	1
奨学金貸付	6	5	△1
その他の費用	1	30	29

※項目毎に端数処理をしているため、合計額が一致しない項目がある。

(4) 収支計画

(単位：百万円)

区 分	予算額 (当初)	決算額	差額 (決算 - 予算)
収 入	18,720	18,795	75
営業収益	17,675	17,652	△23
医業収益	17,055	17,039	△16
運営費負担金収益	603	595	△8
資産見返運営費負担金戻入	17	18	1
営業外収益	1,043	1,131	88
運営費負担金収益	895	946	51
その他医業収益	148	185	37
その他の収入	2	12	10
支 出	18,711	18,342	△369
営業費用	17,694	17,358	△336
医業費用	17,535	17,198	△337
一般管理費	159	160	1
営業外費用	1,004	944	△60
その他の費用	13	40	27
純 利 益	9	453	444

(5) 資金計画

(単位：百万円)

区 分	予算額 (当初)	決算額	差額 (決算 - 予算)
資金収入	41,379	37,969	△3,410
業務活動による収入	18,760	18,542	△218
診療業務による収入	17,200	16,801	△399
運営費負担金による収入	1,498	1,541	43
補助金等収入	34	68	34
その他の業務活動による収入	28	132	104
投資活動による収入	13,227	13,405	178
補助金等収入	27	5	△22
有価証券の売却による収入	13,200	11,900	△1,300
定期預金の払出による収入	—	1,500	1,500
その他の投資活動による収入	0	0	0
財務活動による収入	1,753	1,702	△51
長期借入による収入	678	627	△51
金銭出資の受入による収入	1,075	1,075	0
前年度からの繰越金	7,639	4,320	△3,319
資金支出	32,356	34,430	2,074
業務活動による支出	16,943	16,206	△737
給与費支出	8,811	8,771	△40
材料費支出	4,507	4,332	△175
その他の業務活動による支出	3,625	3,103	△522
投資活動による支出	13,645	16,456	2,811
有形固定資産の取得による支出	939	943	4
有価証券の取得による支出	12,700	11,000	△1,700
定期預金の預入による支出	—	4,500	4,500
その他の投資活動による支出	6	13	7
財務活動による支出	1,768	1,768	0
長期借入の返済による支出	579	580	1
移行前地方債償還債務等の償還による支出	1,187	1,187	0
その他の財務活動による支出	2	1	△1
翌年度への繰越金	9,023	3,539	△5,484

5 その他業務運営に関する事項

(1) 就労環境の整備

- 「あきほ保育園」では、年末・年始の休所日を除き、24時間保育を実施した。
- 病児・病後児保育事業を引続き酒田市から受託し、当該事業を活用し職員の子育て支援を行った。

【実績】病児・病後児保育事業延べ利用者数

	H 2 4	H 2 5	H 2 6
延べ利用者数（再掲）	3 0 4名	2 3 3名	2 9 1名
（うち職員利用者数）	（ 8 5名）	（ 1 0 4名）	（ 1 0 5名）

(2) 人間ドック・検診における連携

- 日本海総合病院では、酒田市が実施した「内視鏡ドック（PET検診含む）」のうち上・下部内視鏡、胸部CT及びPET/CTを継続して担った。

【実績】内視鏡ドックの実績

	H 2 4	H 2 5	H 2 6
上部内視鏡	1 3 8件	1 4 3件	1 4 2件
下部内視鏡	1 3 8件	1 4 3件	1 4 2件
胸部CT	1 3 9件	1 4 3件	1 4 2件
PET/CT（再掲）	—	1 0 5件	4 9件

- 酒田地区医師会及び公益財団法人やまがた健康推進機構と役割分担を行いながら、連携して地域住民の検診を行った。

(3) 地球環境にやさしい病院づくり

- 日本海総合病院の手術部門及び人工透析部門を中心に、蛍光灯828本をLED照明に交換した。

(4) 酒田市飛鳥診療所への支援

- 日本海総合病院は、飛鳥診療所の救急患者対応を支援し、3名の患者をドクターヘリで受入れた。
- 飛鳥診療所の通院患者について、引続き検体検査を受託した。

【実績】検体検査受託件数

H 2 4	H 2 5	H 2 6
4 8 9件	2 1 7件	3 6件